



「春爛漫」
平石農場の菜の花畑



あなん

令和2年5月1日

発行人●阿南町公民館編集部

編集人●公民館報編集委員会

印刷所●飯田共同印刷株式会社

連絡●〒399-1511 東條58-1 TEL 22-2270 FAX 22-2287 E-mail:kyouiku@town.anan.nagano.jp

もくじ

- P1 表紙 遊歩道
- P2 わが町を盛り上げよう
- P3 大陸流転
- P4 公民館分館紹介
- P5 よ!兄貴、私の趣味・自慢
私の夢
- P6.7 できごと・おしらせ
- P8 あの人この人
うちのホープ・編集後記

遊歩道

令和2年、2020東京オリンピック、パラリンピックの年の始まりは期待に満ちていました。1月、中国で新型コロナウイルスの感染が確認されたとき、こんなにも全世界に感染が拡大するとは想像しませんでした。SFパニック映画の世界が広がっています。日々身を守るにはどうしたらよいか、正しい情報は何か見極めないと日常生活を送れません。溢れる情報の中、落ち着いて前を向くにはどうしたらいいか難しい問題です。経済、物流に影響が出始めた時、身の回りには中国製品ばかり。改めて中国の力の大きさを思い知らされました。

今年の桜を見た時「わっ!」と胸が暖かくなりました。3月に咲くなんて早いですよね。周囲では野の草が伸び、木々が芽を出していました。自然の営みは変わらず平然としています。負けてはいられません。4月の初めの暖かい日、飛来した虫がカメムシでした。今年はカメムシが多い年らしいですよ!

わが町を盛り上げよう

野良舞夏 ひまわり倶楽部



平石農場（大下條北條平石地籍）は春には菜の花が、夏にはひまわりが一面に咲き誇り、来る人の目を毎年楽しませてくれます。そんな平石農場を管理しているのが、「野良舞夏ひまわり倶楽部」の皆さんです。

平石農場はもともと桑の木が生い茂り鬱蒼とした場所でした。しかし、故木下喜久雄さんと永田宗則さんが「町のため、地域のために貢献したい」という思いで、桑の木を伐採・伐根するところから活動が始まりました。活動は2005年から始まり、最初は気の遠くなるような作業だったといえます。しかし、今では5月のゴールデンウィーク中には菜の花を、8月のお盆の期間中にはひまわりを見るために、町内はもちろん、町外からも多くの方が平石農場に足を運



にぎわいを見せる平石農場

び、毎年にぎわいをみせています。特にお盆の期間中は阿南町出身者が帰省した際に訪れる場合も多く、阿南町での思い出の場所にもなっています。また、ひまわりは花が散った後、種を収穫して搾り、食用油としても利用されています。（ひまわり油はショッピングセンター「ナピカ」で販売しています。）

平石農場での活動のスケジュールは下の表のとおりですが、種まき、収穫、草取り作業以外にも、「看板づくり」や「案山子づくり」、まいた種を鳥に食

べられないように見張る「鳥追い」、来訪者へのお茶出し等をする「接待」など、手間のかかる作業もあります。

「ひまわり倶楽部」は現在、ボランティアを含めて20人前後で活動を行っています。人手を必要とする作業が多いですが、最初から活動しているメンバーが高齢化しているため、今後活動を継続していくためにはメンバーの若返を図り、後継者を育成していくことが欠かせません。

そこで、これからボランティアとして活動していただける方を募集します。町外の方も大歓迎



案山子を作るボランティアの皆さん

..... 平石農場の1年間のスケジュール

| 期 間 | 作 業 |
|-----------|-------------------------|
| 4月中旬～5月初旬 | 草取り等の景観整備、小屋の掃除、来訪者への案内 |
| 菜の花園開園最終日 | 案山子づくり |
| 6月10日ごろ | ひまわりの種まき、鳥追い |
| 7月中旬～下旬 | 草取り等の景観整備 |
| 8月初旬～中旬 | 草取り等の景観整備、来訪者への案内 |
| 9月10日ごろ | ひまわりの種の収穫 |
| 10月下旬ごろ | ひまわりの油搾り |

迎！お盆など、帰省した時に少しでも手伝っていたただけたら大変うれいいます。1日のみ、数時間程度でも構いません。主なスケジュールは左の表のとおりですが、詳しい日時については代表の永田さん（☎090-4461-0335）までお問い合わせください。ぜひいっしょに「ひまわり倶楽部」の皆さんと活動して阿南町を盛り上げてみませんか。

大陸流転

く敗戦そして抑留8年く

熊谷秋穂氏著

(20)

八路軍に抑留される

東安の担架隊に志願した俺達も一般引揚者と同じように、左胸に県名と氏名を記入したネームを付けた。

「いよいよ、日本軍の傷兵を担架で輸送して、日本には一般の避難民より先に帰ることが出来る」

一種の優越感があった。

俺は母に「先に日本に行っているから、弟、妹を連れて帰って来てな」と別れのあいさつをした。

母は「道中気をつけないよ。お隣の石田家や本家、浅野佐藤家、平久三浦家、伍和征矢家によく言っておいて」と言った。

弟の希穂にも「小さい弟や妹を連れて、おかあちゃんと一緒に帰れよ。俺は先に行くでな」と短かいあいさつをしてきた。

まさか、このあいさつが八年間にも及ぶ長い長い抑留と、母や弟、妹との別れになろうとは。ひたすら日本に帰れることのみを信じて

疑わなかった俺には、想像もつかなかった。

皆、思い思いのあいさつを交わして、意気揚々として汽車に乗り込んだ。

暗闇の中、発車した。どれくらい走ったのか。眠りから覚めた。一面坡の駅だ。夜が明け切っていないので町並みがかすかにぼんやりと見える。

一緒に出発した佐々木茂さん、山下甲司さん、佐々木重秋さん、山下徳一さん、森岡良平さんとは班の編成が違っていたので、また別れ別れとなった。竹下昌義さんだけが同じ連隊のようだ。大八浪開拓団では同じ校舎で共に学び、荒野を裸馬に乗って、駆け回った朋友ともまたお別れだ。何となく心細くなった。

「様子がおかしいぞ。日本に帰るところか、八路軍に抑留されたんだ」

誰言うとなく、まことしやかにささやかれ始めたのはそんな頃だった。

「そんなことがあってたまるもんか」と反発したものの、これが現実のものとなって、俺たちは中共軍に強制抑留されたことに気がついた。

警備も次第に嚴重になって来た。武装した兵士が何人も俺達を護衛するように変わった。

無断外出は絶対に出来ない。日課が決められていて、自由行動は許されない。厳しい監視のもとに八路の軍隊と同じ生活をする事になった。

毎朝、耳慣れない起床ラップで起こされる。

朝食も昼食も夕食も当然、消灯もラップの合図だ。消灯ラップは実に淋しい音色で哀愁を感じさせるものだった。

数日が経過すると、今度は起床後に訓練が日課として加えられた。中隊長の指揮で行進が始まる。

駆け足になると、指揮官の号令に合わせて、一、二、三、四と隊員が一斉に大声を張り上げて駆け足する。徹底した訓練だった。

落伍すると、大きな罵声がとぶ。「快的、加力」と、力いっぱい早く走れと言うことだ。

「君達は八路軍の担架隊として

抑留されたのだから訓練に努力せよ、前線に行くから」

隊長から訓練後に訓示を受けた。俺達は「そんな馬鹿なことはない」「話が違う」と騒ぎ出し、集団交渉を申し込んだが、聞き入れではもらえなかった。

日本傷兵の担架輸送なんて、とんでもない嘘偽りで、八路軍の前線担架隊に編入されていたのだ。俺の抑留生活は、こんな形で意志に反して始まった。

党の教育、軍規、三大規律、八項注意、毛沢東思想教育も、機会あるごとに受けたが、最後まで頭から完全に消え去らなかつたのが、抑留された時の嘘と偽りだった。それがために思想改造はされなかつたのだ。



公民館分館紹介
富草地区 雲雀沢分館



季節になると咲き誇る国道沿いの桜並木

飯田方面から国道151号を南下し、雲雀沢トンネルを抜けると雲雀沢地区に入ります。

トンネルを出てから雲雀沢橋にかけての国道沿いには、数十本の桜の木が植えられています。この桜の木は国道が開通してから、老人クラブ（北部会）の方々によって植えられました。今でも、草刈りなどをして維持

管理をしていただいています。

そのおかげもあり、満開を迎えると、とてもいい景色が広がります。また、秋になると国道を飯田方面に向かって古城地区から雲雀沢地区にかけて、きれいな紅葉を見ることが出来ます。

雲雀沢地区は現在22戸あります。当地区では、年々住民が減ってきて中学生以下は3人で、寂しくなりましたが、地区の活動や個人、団体での活動など、それぞれの立場でがんばっています。

地区の行事としては1月にどんど焼きを兼ねて、新年会が雲雀沢公民館で行われます。どんど焼きは数年前まで地区の中でも分かれて行われていましたが、今では一か所に集まって大勢でにぎやかに行われています。どんど焼きが終わると鍋を囲んで談笑です。



雲雀沢神社

3月上旬には春季祭典、9月下旬に秋季祭典が雲雀沢神社で行われます。秋季祭典では壮青年部による焼きそば、焼き鳥、子どもたちのくじ引きなどの夜店の催しがあり、美味しくて安いと評判です。十数年前までは、屋台を組み、その中で



お囃子をし、打ち上げ花火などが盛大に行われました。若者の減少などもあり、年々縮小されてきています。しかしこの日は境内に子どもの声が響き渡ります。

地区独自の公民館活動はしていませんが、富草地区球技大会と町民運動会に参加しています。運動会では大島分館、大恩分館の皆さんと北西部として出場しています。

雲雀沢分館では受け継がれる行事はできる限り維持し、活気あふれる地区にしていければと思います。

私の趣味・自慢!

「編み物」

大下條 南島 恵子さん

編み物は小さい時に、ガーター編み・メリヤス編みを自己流で始めて、途中で編み物の基本を覚えてから今に至ります。高校生の時はレース編みに凝って手芸部に入り、一年に一作品ずつ大きなものを作りました。

今では、セーターやベスト・ショール・靴下カバー・ネックウォーマーなどの小物を作って楽しんでいます。希望があれば、新たに編んであげたりしています。小さなものはプレゼントにすると喜ばれます。最近は頼まれて作ることが多くなりました。

かれこれ数十年にわたり続けている趣味です。肩こりを心配してもらいますが、編み物をしないと肩が凝ります。健康のバロメーターです。

楽しく続けることができているのでこれからも長く続けていけたらいいなと思っています。



よっ! 兄貴



富草 大恩

小林 達矢さん

・あなたが今やっていることについて教えてください。

私はこの春、高校を卒業し、新社会人となりました。就職してわからないことばかりですが、先輩方の話を聞いて早く仕事を覚えて活躍できるようになりたいです。

・これからやりたいことは何ですか。

中学、高校とソフトテニス部に所属していました。私はテニスが大好きです。忙しくなるかもしれませんが、たくさんのことを学んだテニスをこれからも楽しんで続けたいと思います。

私の夢

和合小学校 6年

井上 笑えがく穂さん



私がやりたいと思っていることは、料理を作る人です。料理を作るのは、人が喜んでくれるし、作るのが楽しいからです。家でもたまにご飯やおやつを作っています。ご飯を作るのも、ガスではなくかまどで作ります。そして、ご飯を作るのも楽しいけど、おやつを作るのも好きです。最近作っているおやつは、本を見て作っています。本の題名は、手作りおやつという、オーガニックの本です。まだ二つしか作ってないけど一つは、しら玉だんごという、ごくぶつのおやつです。二つ目は、玄米かりんとうです。とてもかりんとうとしていて、おいしかったです。どちらも、家族の人は、すごくおいしいと喜んでくれました。とてもうれしかったです。そして、作っているときも楽しかったです。

できごと 3・4月

第8回あなんカラオケ歌謡大会

2月23日

昨年、町外からも参加者を募った結果、例年より20人ほど多い参加者が集まりましたが、今年はさらに昨年より5人多い65人のエントリーのもと開催されました。

参加者は演歌から歌謡曲まで幅広いジャンルを、フルコーラスで熱唱し、自慢の歌声を披露しました。

結果は次の通りです。

(かっこ内は曲名)

最優秀賞

田嶋 秀幸さん【新野】

(海の匂いのお母さん)

優秀賞

都富 浩貴さん【飯田市】

(for you)

敢闘賞

原田 茂美さん【大下条】

(まつり)



敢闘賞を獲得した
原田 茂美さん



優秀賞を獲得した
都富 浩貴さん



最優秀賞を獲得した
田嶋 秀幸さん

小倉 春樹さん【中津川市】
(昭和の酒場)

新野公民館 卓球とバドミントンの親睦会

2月23日

卓球とバドミントンの親睦会を新野小学校体育館で行いました。結果は次のとおりです。

(敬称略)

バドミントンの部

(参加者18人)

優勝

城田龍希

木村まりんペア

準優勝

金田竜和

村松美雪ペア

三位

勝野弘大

城田桜希ペア

卓球の部

(参加者16人)

優勝

村松美雪

準優勝

金田竜和

三位

城田照美



新型コロナウイルスへの 対応について

新型コロナウイルスの感染終息が見通せない中、図書館の利用に関しては次の点に十分留意のうえ、利用していただきますようお願いいたします。

1、施設使用条件について

①入館時は必ず手をアルコール消毒する。

②利用は貸出、返却のみ。

③図書館の利用時間は30分以内。

※学習、読書、本の閲覧などの滞在は不可。

④マスクの着用、咳エチケットの励行。

⑤発熱などの症状のある方は、来館をご遠慮ください。

2、貸出冊数、貸出期間について

当分の間、次のとおりとします。

①貸出冊数：一人20冊まで(通常時は一人10冊)

②貸出期間：4週間以内(通常時は2週間以内)



- 内容
 - ・ 毎月一回の編集会議
 - ※ 第一火曜日
 - 午後1時30分
 - ・ 担当地区での原稿収集
 - ・ 原稿の確認と校正
 - 待遇
 - ・ 報酬 一号発行につき5,700円(控除なしの金額)
 - 任期
 - ・ 3年(延長も可能)

募集!

阿南町公民館報を
いっしょに作りませんか!?

公民館報編集委員

令和2年度 公民館役員組織

令和2年度阿南町公民館役員が決まりました。

令和2年度
公民館役員

| 名称 | 富 草 | 大下条 | 和 合 | 新 野 | | |
|-------------|-------|-------------|------|--------|-----|-------|
| 公民館長 | 伊藤久直 | 佐々木 豊 | 石田光善 | 村松幸廣 | | |
| 社会部長 | 伊藤 翼 | 村沢勝利 | | 田嶋東穂 | | |
| 体育部長 | 勝野翔太 | 勝又 司 | | | | |
| 主 事 | 奥村鉄兵 | 最賀哲司 | 安野涼介 | 村松倅介 | | |
| 分館 | 分館長 | 分館 | 分館長 | 分館 | 分館長 | |
| 富 草 | 大 島 | 大 下 条 | 大 北 | 新 野 | 大 村 | 金田光幸 |
| | 大 恩 | | 第 一 | | 寺 山 | 山下竹彦 |
| | 雲雀沢 | | 大 二 | | 原 町 | 田嶋 修 |
| | 粟 野 | | 中 央 | | 荒 木 | 金田竜和 |
| | 鷺 巣 | | 西 北 | | 東 町 | 太田竜平 |
| | 門 原 | | 大 西 | | 本 町 | 佐々木 悠 |
| | 浅 野 | 大 南 | 砂 田 | 猪切保義 | | |
| | 鳴 目 | 西 南 | 栃 洞 | 金田純夫 | | |
| | 梅 田 | 学 校 上 | 川 尻 | 佐々木義一 | | |
| 新木田・ 横 林 | 学 校 下 | 矢 野 | | | | |
| | 日 吉 | 脇 坂 | | | | |
| | 東 部 | 村 澤 | | | | |

阿南町公民館

館長：佐々木 豊 主事：最賀 哲司

公民館報編集委員会

小澤 亮子(富草) 久保田 幸子(大下條)
飯野 悠子(和合) 山下 雅子(新野)
各地区公民館長 各地区公民館主事

あの人この人



大下條 大平散歩の会
左から小澤重子さん、小林公江さん、
小林はつゑさん、城田キミヨさん

早朝、6時20分ごろ、森林に囲まれた待ち合わせ場所に4人の方々のはつらつとした元気な姿が見えました。
散歩のきっかけをお聞きすると、最初は1人の方が犬を連れての散歩だったのですが、次第に近所の方々4人が連れ立って歩くようになったそうです。仲間がいることで、長く続けることができていると、7・8年が過ぎるといいます。もう、雪の日や路面が滑りやすい大雨などの日以外は毎

日歩きます。皆さんお仕事をしておいらっしやるので朝の6時前から出発し、大平のご自宅から深見方面に向かい、一中入口の十字路まで25分。1時間ほどかけて往復するそうです。いろいろな話をしながら楽しく歩くことができていますのでストレスの解消にもなっています。また、地区の情報の交換もできます。さらに一人暮らしの人たちは、ご自分が散歩に行かなかったときに心配してくれる人がいるということが安心につながっているそうです。(ほんとにそうですね)
そしてお孫さんと買い物に行くときなど、以前は途中で座って休みたいと思ったけど、今はいっしょに歩けるようになったそうです。足の痛みも取れて階段も苦痛なく上れるようになり、腰痛も良くなってきたそうです。うれしい効果が生まれました。
これからは寒さも和らぎ、明るくなりますが、冬場は寒くて暗いのが少し大変だとか。とはいえず、野鳥の声を聞きながらの森林浴と、心肺機能の向上に役立つ道路の高低差は健康維持に大切です。どうぞ百歳まで続けてくださいね。

うちのホープ



新野 荒木
林下 真二さん・舞さんのお子さん
虎汰郎くん(4歳)、桜々ちゃん(2歳)
(写真右) (写真左)

林下虎汰郎です。4歳です。僕が生まれたのは1月29日。19時間かかって、やっとお腹から出てきたよ。パパも数時間痛がるママの腰をさすって疲れたんだって。
僕は2歳になる前に飯田から新野に引っ越してきたよ。僕の中の1年中こいのぼりの事いっぱい。大好きすぎて去年の11月頃から「早くこいのぼりあげて欲しいなあ」って言ってるんだ。
林下桜々です。2歳です。私が生まれたのは2月12日。大雪の日の夜中でした。陣痛が

始まったと聞いて、新野のばあばはまだ雪をかいてない道の中2時間かけて飯田まで来てくれたんだって。パパは前日から消防の旅行に行っていたんだけど、ママから電話で聞いて、早く帰ってきてくれたんだって。パパが病院に着いて15分後に私が生まれたんだよ。「ちゃんとパパの帰りを待ってたよ」
今はお兄ちゃんの真似をしていっしょに遊ぶことが大好きです。



親と上司は選べないという。が？ 昨今、上司を見限る部下も多いので、そうとも言えない。
友人はどうか、こちらは選べる。良き友人を持つことは老境に至ると、なおさらそう実感する。年齢に比例し友人が少なくなる。友とは何か。悪友ほど付き合いが深く長い。良友と悪友の境目はどこか？
良き友とは苦楽を共にし、甘言ではなく、忠言する人ではないか。